

に出馬せられし時、僧萬里和尚をとまひ、卯辰山の嶺上に陣營を布き、山狀の蜿蜒たるを見て臥龍山と名付け詩題となしたるよし古記録に載せたり。此の山の形狀實に臥龍ともいふべし。元祿二年・十二年・十三年などに山嶽崩れしかど、僅少の事にて、山狀は依然たりしを、廢藩の際慶應三年五月より嶺上を平均して町地となさんとの建議起り、市中人民共金銀を募り、夥多の工夫を出し、一時狂氣の如く男女蟻集して、庚申塚・勘兵衛塚などの高峯を取毀ち、深谷を埋めて山上を平均し、其の本意を達したり。この間、僅か一年にて其の事業を廢したりといへども、此の時より臥龍山の山狀を變じ、往古よりの風致を失へり。おもふに其の平均せし地所、人民の居住も成り難く、又開拓するにも土味一變して桑・茶も培養なりがたければ、遂に金澤人民の埋葬地となして、臥龍山の雅名も今は徒らに成りたり。實に是一時の有司共が失錯と云はざるを得ず。

○宇多須山古墟

後村上天皇の御世正平十七年、北朝應安二年九月十二日、桃井直和加賀國宇多須山に陣營せし處、同十五日吉見左馬

助其の城を攻陥し、同十七日同國松根の陣營を追陥したるよし、得江八郎次郎季員申軍忠狀に見えたり。津田鳳卿の梧崗文稿に、宇多須古壘。蓋今上杉謙信軍營、俗呼茶磨山。といへり。按ずるに、正平の時なる宇多須城は、一時防禦の爲め築きたる砦にて、其の遺蹟今詳かならず。又是より後天正五年、能登の領主畠山義春七尾城に天亡せられ、長續連の一族その城を守護せし處、遊佐・温井等の爲に長一族悉く欺殺せらる。此の際に乘じ、越後の領主上杉謙信能登國に發向し、直に加賀國に討入りしが、此の時謙信僧萬里を伴ひ、金澤城の東茶白山に登りて陣を布き、此の山狀の蜿蜒たるを見て臥龍山と名付け、且僧萬里山上より金澤城を臨んで一聯句を賦しけり。

君祈萬歲白山社。

臣守四方金澤城。

于時金澤尾張町の町人淺野屋惣右衛門が先祖傳右衛門が家を旅館となし、謙信爰に止宿し、小脇刺等を賜はりたるよし三州志に載せたり。或は云ふ。宇多須山の古墟は、今卯辰神社とて近年造立せし嶺上の社地は、従前卯辰山全備

の頃は鴨ヶ峰と稱し、山中の二峰にて防禦ともなすべき地勢なり。そのかみ砦を築き或は陣營としたる地、若しくは此の地ならんかといへり。按ずるに、上杉謙信の陣營は、金城を見下したる地なれば、鴨ヶ峰なる事知られたり。

○卯辰山神社

此の社地は、卯辰山鴨ヶ峰と稱する一峰にて、従前は小松繁茂せし山嶽なるを、慶應三年病院建築を名とし、嶺上を平均し、病院の守護神として此の神祠を創立せんと、同年九月社地を下し、同月廿八日に地鎮の式をなし、十月十一日社殿落成、十五日竹澤邸より神靈遷座ありて、卯辰八幡神宮の厚見氏この遷座式を勤めたり。聖明治元年社號を卯辰神社と稱し、御影町東西兩町の人民をして、當社の氏子となさしむ。同年十一月村社に列し、豐國神社の神職の兼勤する社となりたり。神祠創立記に云ふ。

年不能無水旱之患。因有救荒之備矣。民不能無疾病之患。而獨可無備哉。關山而設病院。置醫員。使疾病不能自存者就而療養。民庶幾得免非命之死矣。雖然。有病院之設。而欲民之無疾病。猶有救荒之備。而欲年之無水旱也。

其有備者人事而司牧之責也。至人事所不及。則不得仰神助也。於是建神祠于山嶺。永祭奠。所願無他。欲民之寡疾病而已。

時慶應三丁卯九月遠孫伏祈冥助。

慶應三年歲在丁卯。允町奉行臣三浦賢高。臣不破貞順等建議。關茶白山。而設養病院。置醫員。以療窮民之病者。新建二祠于其地。經營不日成之。於是參議公作三神輿。中納言公書天滿天神。少彥名命二神號。參議公書大已貴命號。三神併祀。令社司永奉祭奠云。是歲秋九月臣市川三謹記。

○卯辰山招魂社

此の社は卯辰神社の下にあり。其の草創は明治元戊辰年越後奥羽の諍亂に、吾金澤藩出兵戦歿の者百三名、その靈魂を祀らん爲め、同年十一月二日卯辰山庚申塚の地に假殿を設け、初て藩知事前田慶寧卿より祭奠を命ぜらる。はその濫觴なり。さて同三年十二月、卯辰山なる今の社地を下して、招魂社を造立し、各石碑を建てられ、知事公より祭資料米一千俵を毎歲寄附せられ、春秋兩度招魂祭を執行せしめらる。故に有志の輩狼烟を獻備す。廢藩後は祭資料を止